

みやぎ地域連携マッチング・デイズ2022 出展者一覧

▶出展者[企業]

No.	カテゴリ	企業名	出展代表者	発表テーマ・概要	ニーズ
01	ロボット・AI	HMK DESIGN	代表 三浦 博文	機械設計とデザイン支援で「ものづくり」を課題解決 機械設計で30年以上培った経験とノウハウをもとに、製造現場における様々な悩みを解決します。特に防水設計やデザイン性を活かした設計を得意とし、キャラクターロボット開発も展開しています。	販路開拓 ・ 加工委託
02	産学・地域連携	株式会社 オプス	第三事業部 部長 安達 裕	抗菌・抗ウイルス仕様の生活に向けて 公共交通機関や施設、舗装材メーカー等、様々な場所で採用されている抗菌・抗ウイルス・防カビコーティング剤アドバンスコート。基本的な性能からこれまでの活動、採用実績、今後の展開についてご紹介します。	販路開拓 ・ 共同研究
03	産学・地域連携	第一ガスケット工業 株式会社	統括部長兼工場長 内藤 浩幸	プラスチックの切削加工技術を「活かす！」地域貢献型事業 大型部品加工を強みとしています。加えて新工場にはmm単位の製品加工ラインを増設しました。水素自動車部品、医療機器部品他、精密部品の加工実績に基づく技術・知識を活かし地域産業に貢献します。	加工委託 ・ 販路開拓
04	IoT	中谷産業 株式会社	営業部 営業課 石川 恵子	電子部品「基板・センサー類」への防塵・防水 現状、防水・絶縁対策はパッキン・ポッティング等の手段でした。弊社は電子部品を安定した樹脂封止をする事で外的環境から守り更に外観製品（筐体レス・デザイン等）としても客先から認証される技法です。	販路開拓
05	マシン・ マテリアル	日本積層造形 株式会社	代表取締役社長 日下 良太	金属積層造形の新たな可能性 金属積層造形により、プロセスと製品が、直接的・間接的にカーボンニュートラルに貢献します。部品の強度改善・工期短縮・余剰在庫削減・サプライチェーン管理の効率化が期待できます。	販路開拓 ・ 加工委託
06	エコロジカル・再生エネルギー	ファイトケミカルプロダクツ株式会社	代表取締役 加藤 牧子	マルチ生産プロセス製品群の用途開発 東北大発「イオン交換樹脂法」を活用し、米ぬか由来の未利用油資源を高付加価値化。燃焼用バイオ燃料や食品・化粧品原料となるスーパービタミンEを製造しています。これらの製品を利用してくださる企業を募集しています。	販路開拓
07	マシン・ マテリアル	プラスエンジニアリング株式会社	営業部 土田 遼太郎	特注金属部品を”薄く・細く”！薄板・細ピン形状の精密機械加工 部品1点からの平面研削・円筒研削加工で金属部品をどこまで薄く・細く出来るかに挑戦しました。材質や形状の違いによって仕上がりの精度や強度にどのような差が出るのかにも着目した内容です。	販路開拓

(敬称略)

みやぎ地域連携マッチング・デイズ2022 出展者一覧

▶出展者 [学術機関]

No.	カテゴリ	機関名	出展代表者	発表テーマ・概要	ニーズ
08	アグリ・バイオ	東北工業大学	工学部 電気電子工学科 教授 葛西 重信	ウシ乳房炎診断用小型電気化学センサ ウシ乳房炎の日本の経済損失は年間800億円と試算されています(日本乳房炎研究会2012)。我々は、酪農家自身がある場で簡便かつ高感度に検査可能な小型電気化学センサの開発をしており、プレゼンではその概要を紹介します。	加工委託 ・ 技術相談
09	産学・地域連携	東北工業大学	工学部 情報通信工学科 教授 佐藤 篤	赤色波長帯及び紫外波長帯における高出力レーザー技術 医療・美容分野、センシング分野などで用いられるアレキサンドライトレーザーを、ランプ交換や冷却水交換が不要なシステムで実現しました。プレゼンでは、赤色波長帯ならびに紫外波長帯での動作特性を紹介します。	共同研究
10	アグリ・バイオ	宮城大学	食産業学群 教授 北辻 政文	栄養塩等を継続的に供給可能な藻場ブロックの開発 鉄や栄養塩を継続的に供給可能な藻場ブロックを開発しました。藻場ブロックを設置することにより藻場を再生し、漁業振興の促進のみならず、生物多様性の保全、水質の浄化等の機能付与を期待するものです。	販路開拓 ・ 共同研究
11	産学・地域連携	仙台高等専門学校	みやぎものづくりと まなびのラボ 准教授 熊谷 進	地域生産現場発イノベーション共創を基軸とした「はたらく」と「まなぶ」のミルフィーユ型社会の実現 学生には地域企業のはたらきがいを知る機会、地域企業の若手社員には共にまなぶ機会をつくって、産学官の垣根なくやりがいを見い出そうという取り組みです。	その他
12	ロボット・AI	仙台高等専門学校	総合工学科 教授 園田 潤	環境・インフラ点検分野におけるAI自動識別・自動走行ロボット 人工衛星測位や複数センサで自動走行しAIにより内部を自動で識別・画像化するインフラ内部点検自動ロボット、およびこれを応用展開した海ごみ自動運搬ロボットについて紹介します。	共同研究 ・ 技術相談

(敬称略)